

## 令和 2年度 行政評価事業別シート

<b>実計対象</b>	<input checked="" type="checkbox"/>	<b>評価対象</b>	<input checked="" type="checkbox"/>	<b>新規</b>	<input type="checkbox"/>	<b>完了事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>ゼロ予算事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>担当者</b>	村石英児
<b>全体計画</b>	平成31年度 ~ 令和 2年度			<b>経費区分</b>	実施計画事業費			<b>内線</b>	3137		
<b>事務事業名</b>	14311 第六次須坂市総合計画策定事業										
<b>所 属</b>	050200 総務部・政策推進課										
<b>施 策</b>	07024500 長期的展望に立った財政運営										
<b>予算科目</b>	<b>会計</b>	01 一般会計									
	<b>科目</b>	020109 総務費・総務管理費・企画費									
	<b>事業</b>	050000 第六次須坂市総合計画策定事業									
<b>事業目的</b>						<b>事業概要・効果</b>					
<p>第五次総合計画の計画期間が令和2年度で終了するため、令和3年度を初年度とする第六次須坂市総合計画を策定する。</p> <p>（既存の行政計画である国土利用計画、まちひととご創生総合戦略については総合計画に統合する）</p>						<p>第六次総合計画は、第五次総合計画と同様に基本構想（10年）・基本計画（5年）・実施計画（3年）の三階層とし、基本構想では市の将来像、まちづくりの基本姿勢、施策の大綱を定め、基本計画では、基本構想に定める将来像を実現するための施策を体系づける。</p> <p>時代の潮流を的確に捉え、社会環境の変化や住民ニーズの多様性を的確に分析し、今後の施策方針を具体的に示した計画とするとともに、多くの市民意見を吸い上げつつ職員の知恵と創意により、市民と行政の協働の指針となる計画策定を目指す。</p>					

**PLAN-DO**  
年度実績及び予定

<b>平成27年度 実績</b>	<b>平成28年度 実績</b>
<b>平成29年度 実績</b>	<b>平成30年度 実績</b>
<b>平成31年度 実績</b>	<b>令和 2年度 予定</b>
<p>現状及び将来の分析、第五次総合計画の施策評価、庁内若手職員ワーキンググループによる計画策定にあたっての調査研究、市民総合意識調査などを行い、市の今後10年間のあるべき姿を検討した。</p>	<p>基本構想を作成するとともに、市内団体等とのヒアリングやパブリックコメントなどを行い、第六次総合計画前期基本計画を作成する。</p>

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		7,240	3,780
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		7,240	3,780
人員数 (人)	正規職員	0.7	0.7
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	5,085.5	5,085.5
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	5,085.5	5,085.5
市民一人当たりの経費		0.2	0.2
総額		12,325.5	8,865.5

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	169	審議会委員報酬169
11節 需用費	50	消耗品50
13節 委託費	6,319	計画策定業務委託6,319
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	702	費用弁償39 郵便料662

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	306	審議会委員報酬306
10節 需用費	758	消耗品費10 印刷製本費748
12節 委託費	2,605	策定委託料2,605
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	0	
その他	111	費用弁償111

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	高い
評価コメント	市の最上位計画であり、今後10年間の市のすすむべき方向性を明確にし、その実現のために計画に基づいて施策を展開していく必要がある。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	有効
評価コメント	市民アンケート調査や人口推計、人口動態の把握及び分析、主要社会指標分析による市の「強み・弱み」の把握及び分析など行うことにより、今後のまちづくりの方向性を検討することができた。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	向上
評価コメント	計画策定業務の委託により様々な助言をもらうとともに、職員の業務軽減を図ることができ、効率的に業務を進めることができた。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

市民アンケート調査では回答率43.7%と多くの住民の意見を把握することができた。また、様々な調査を実施することにより、市の現在の状況などを把握・分析することができた。  
また、審議会や庁内策定委員会、庁内策定ワーキンググループの開催により、様々な立場の人に今後のまちの方向性を考えていただき、基本構想の方向性を定めることができた。

**ACTION**

**1次評価**

**2次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>総合計画の策定にあたり、市の現状、市民の考えを把握して、今後の市のあるべき姿を議論し、そこから何をすべきかを考える現状の方法が適切。策定に向けた過程が職員の能力向上にもつながる。</p>		<p>市の現状、市民の考えを把握するとともに、新たな手法で、今後の市のあるべき姿を議論した。2年度中の策定に向けて職員一同、積極的に関係事務を進めている。</p>	

**外部評価**

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	